

第1学年 国語科学習指導案

1 年 19名
指導者 黒田京子
一宮節子

1 単元名 「大すき」が いっぱい ～こんな「大すき」 見つけたよ～

2 指導にあたって

(1) 単元設定の理由

本学年の学習者は、日々の読み聞かせや読書活動で、お話の世界に浸ることの楽しさを少しずつ経験してきている。この時期に、お話を読むことの楽しさを十分に味わわせることは、学習者のこれからの読書生活に大きな影響を与えるものと考えられる。

今までに学習した『おむすびころりん』や『大きなかぶ』『くじらぐも』などの教材では、楽しく音読したり劇化したりすることによって、物語の筋の展開をとらえたり、登場人物の心情を想像したりする学習に取り組んできた。これらの学習を通して、学習者は、お話の中の登場人物とともにお話の世界に入り、その世界に浸ることの楽しさを体感し、自分の気持ちを素直に表現することができるようになってきた。また、「ほんとなかよし」の学習を通して、友達が紹介した本を読む姿や読んで楽しかった本を紹介し合っている学習者の姿が少しずつ見られるようになってきている。ただ、学習者の本の紹介を見てみると、ある一場面だけの様子や言葉のおもしろさだけをとりえていることが多い。そういう読書の楽しみ方も大切にしつつ、物語の主人公に寄り添うなど、視点を定めたり、テーマを意識しながら読んだりして物語全体を読むという読書の楽しみ方も味わわせたい。

本単元では、『ずうっと、ずっと、大すきだよ』をモデル学習として、「大すき」をテーマとしたお気に入りの本を紹介し合う活動を通して、読書の楽しみを広げることを計画している。この教材には、主人公「ぼく」の目を通して、飼犬エルフとの一生にわたる温かな関わりが描かれている。年を取ったエルフに「ずうっと、大すきだよ。」という言葉がいつもささやく「ぼく」。主人公がエルフをいかに愛していたかが分かる。読者としての学習者がその表現のはしばしに感じられるエルフに対する優しい思いに気付きながら読み進めていけるようにしたい。その際、主人公がエルフを思う気持ちの深さや強さ、「大すき」という言葉をより受け止める手だてが必要となる。そこで、この機会をとらえ、「大すき」というテーマをもつ本を重ねて読む場を設けることにより、主人公「ぼく」がエルフにかかる「大すき」という言葉の深さを実感できるようにしたい。このように、一つの言葉のもつ意味の多様さや重さを第1学年なりに感じさせるという経験がこれからの読書の楽しみをさらに広げると考え、本単元を設定した。本単元においては、朝の会などで「大すきなものはっぴょうかい」をし、「大すき」への関心を高め、目的を明確にすることにより、主体的に学べるようにする。また、学習の記録としての「大すきカード」を書き重ねることによって、自覚化への基盤とし、ここでは、学習者の発達段階を踏まえ、情意面に重きをおいた自覚化ができるようにしたい。

本時は、「ぼく」の気持ちが分かる叙述や挿し絵に着目して、物語の主人公「ぼく」が、どれほどエルフのことを思っているのかを考える4時間目となる。「ぼく」のエルフを思う気持ちについて伝え合ったり書いたりすることを通して、「ぼく」のエルフに対する思いの深さに気付かせたい。そして、「大すき」というテーマを意識させて、これからの読書活動へとつなげていきたい。

- (2) ことばを大切に、「読むこと」を通して、自分の考えを深め表現できる力を育てる手だて
- 学習者の実態に即した本を用意し言語環境を整え、学習の手引きを活用することによって、学習者が登場人物の様子や気持ちを読み取りやすくし、その読みを話したり書いたりできるようにする。
 - 友達の発言を聞き合う場を多く設定し、「読みの交流」をすることによって、自分の読みを深め、広げることができるようにする。

3 単元の目標

(1) 学習者の活動目標

- 見つけた「大すき」を紹介しよう。

(2) 指導目標

- 易しい読み物に興味をもち、楽しんで読むことができるようにする。
- 場面の様子や人物の行動などについて、想像を広げながら読むことができるようにする。
- 相手に分かりやすく話したり、話の内容の大体を聞くことができるようにする。
- 目的をはっきりさせて、文章を書くことができるようにする。

4 評価について

	評価規準	「十分満足できる」状況 「おおむね満足できる」状況にするための手だて	評価の資料
関心・意欲・態度	易しい読み物に興味をもち、楽しんで本を読もうとしている。 (読むことア)	<ul style="list-style-type: none"> ・「十分満足できる」状況 自分の読みたい本を見つけて積極的に手に取り、いろいろな読み物を楽しんで読もうとしている。 ・「おおむね満足できる」状況にするための手だて 「大すき」をテーマとした本（文字数・文章量・挿し絵の数などが違う様々な本）のコーナーを設置し、個人の力に応じて読書が楽しめるようにする。 	発言 読書の様子 学習の記録
読むこと	場面の様子や人物の行動などについて、想像を広げながら読んでいる。 (読むことウ)	<ul style="list-style-type: none"> ・「十分満足できる」状況 想像を広げながら人物に寄り添って読んでいる。 ・「おおむね満足できる」状況にするための手だて 友達と読みの交流をする場を意図的に設け、登場人物の行動や気持ちに気付くことができるようにする。 	発言 学習の記録
話聞すること	相手に分かるように話したり、話の内容の大体を聞いたりしている。 (話すこと・聞くこと ア・イ)	<ul style="list-style-type: none"> ・「十分満足できる」状況 自分なりに工夫しながら、分かりやすく本の紹介をし、大事なことを落とさないように聞いている。 ・「おおむね満足できる」状況にするための手だて 紹介の練習をすることによって自信をもたせたり、聞き方を示した手引きを用意したりして、登場人物や出来事などに気を付けて聞くことができるようにする。 	発表 発言 表情 学習の記録
書くこと	目的をはっきりさせて、文章を書いている。 (書くことア)	<ul style="list-style-type: none"> ・「十分満足できる」状況 目的を明確にし、内容がよく伝わるように書いている。 ・「おおむね満足できる」状況にするための手だて モデル(例)をいくつか挙げた学習の手引きを用意し、簡単な紹介文が書けるようにする。 	紹介カード 書いている様子 学習の記録

5 学習計画 (全10時間)

身に付けさせたい力	学習活動と指導 (★)	学習者の意識の流れ
<p>[関心] 易しい読み物に興味をもって読もうとする。</p> <p>[読む] 登場人物を押さえ物語の大体が分かる。</p> <p>[読む] 登場人物の心情に注意しながら読む。</p> <p>[読む] 具体的な表現から想像を広げて読む。</p> <p>[書く] 目的をはっきりさせて、文章を書く。</p> <p>[話す・聞く] 相手に分かりやすく話したり、話の内容の大体を聞いたりする。</p> <p>[関心] 興味深い本を楽しんで読もうとする。</p>	<p>(事前)</p> <p>○ 朝の読書や読み聞かせなどを通して、いろいろな物語に親しむ。 ★物語の本を学級文庫に集める。 ★読み聞かせで、興味・関心を高める。</p> <p>1 自分の生活の中の「大すき」について話し合い『大すき』を紹介しよう」というめあてをもち、学習計画を立てる。(1時間) ★モデル学習として、『ずうっと、ずっと、大すきだよ』を取り上げることにより、物語の読みを学ぶことができるようにする。</p> <p>2 『ずうっと、ずっと、大すきだよ』を読んで、紹介文を書き、発表し合う。(5時間 本時 4/5) ★友達と読みの交流をすることにより、登場人物の行動や気持ちに気付くことができるようにする。 ★「ぼく」の気持ちの深まりを表す大事な言葉や叙述をもとに、想像を広げるようにする。 ★見つけた「大すき」を伝えるように書くための観点を示す。</p> <p>3 好きな物語を読んで、自分の見つけた「大すき」の紹介文を書き、発表し合う。(3時間) ★今までの学習を想起させることにより、物語の中の「大すき」を捉え、紹介できるようにする。 ★見つけた「大すき」をいくつかのまとまりに分け、いろいろな「大すき」があることに気付かせる。</p> <p>4 友達の紹介した物語を読んで、感想を伝え合う。(1時間) ★感想を伝え合い、今後の読書生活がより豊かになるようにする。</p>	<p>いろいろなお話がある。先生が読んでくれない。読んでみたい。先生が読んでくれた本を読みたくない。</p> <p>本の中の「大すき」を見付けるんだな。</p> <p>うまく見つけられるかな。 本の中の「大すき」ってどんなこと。 どの本の中にあるのかな。</p> <p>「ずうっと、ずっと、大すきだよ」で「大すき」を見付けるんだな。どんなお話かな。</p> <p>エルフが死んでかわいそう。 エルフのことが大好きなんだな。 大好きってぼくとエルフのこと。</p> <p>「ぼく」は、どれぐらいエルフのことが大好きなんだろう。</p> <p>いっしょに夢を見るほど好き。 エルフがわるさをして、エルフが死んでも、ずうっと、ずっと、大すきだよ。 年をとって動けなくて、エルフがいなくなっても、ずうっと、ずうっと、大すきだよ。 年中、ずうっと、ずうっと、大すきだよ。</p> <p>見つけた「大すき」を知らせたいなあ。 どういうふうに伝えようか。</p> <p>だれの「大すき」かを書けばいいんだ。 どんな「大すき」かを書けばいいんだ。 どれぐらい「大すき」かを書けばいいんだ。</p> <p>ほかのお話も読みたいなあ。見つけた「大すき」も紹介しよう。</p> <p>死んでしまっても大好きなんだ。 ちょっとちがう「大すき」だな。 こんな「大すき」があったよ。</p> <p>いろいろな「大すき」があるなあ。 エルフを「大すき」とはこういうことなんだ。 こんな「大すき」を見つけたんだな。</p> <p>ほかのお話も読みたいなあ。見つけた「大すき」も紹介しよう。</p>

6 本時の学習

(1) 目標

① 学習者の活動目標

「ぼく」が、どれぐらいエルフをすきなのかをはっぴょうしよう。

② 指導目標

具体的な表現から、登場人物の気持ちを思い浮かべ、想像を広げながら読むことができるようになる。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点	具体の評価規準
1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	・前時終盤に描いたハートやそのわけを発表することを知らせ、学習のめあてをもつことができるようにする。	主人公の気持ちを発表したり書いたりしている。
「ぼく」が、どれぐらいエルフをすきなのかをはっぴょうしよう。		
2 「ぼく」がどれぐらいエルフのことを思っているのかを考える。 ・大事な言葉や叙述をもとに話し合う。 「ぼくは、いらない」 「エルフのバスケットをあげた」 『ずうっと、ずっと、大すきだよ。』 など	・「ぼく」の気持ちの深まりを表す大事な言葉や叙述をもとに、想像を広げながら読み取ることができるようにする。 ・友達の発言を聞き合い、読みの交流をする際には、指導者が司会役となり、他の学習者が聞き取りやすいように配慮する。	
3 話し合ったことをもとに、思いを書き発表し合う。	・個に応じた書く手引きをする。 ・書いたことを全員が発表する場を設けることによって、学習者に成就感や満足感をもたせる。 ・学習者の発言と、根拠にしたと思われる叙述を結び付け、読みを振り返りつつ聞くことができるように、板書上で示す。	
4 本時の活動を振り返り、学習のまとめをする。	・学習のまとめをし、次時への意欲を高めるようにする。	

(3) 評価

評価規準 「十分満足できる」状況	「おおむね満足できる」状況にするための手だて	評価の資料
主人公の気持ちが分かる叙述から、主人公の心情を考え、発表したり書いたりしている。	・ワークシートや挿し絵を活用し、主人公の気持ちを思い浮かべることができるようにする。 ・友達の発言や板書を手がかりにして、自分の思いが書けるようにする。	・ワークシート ・発言 ・観察